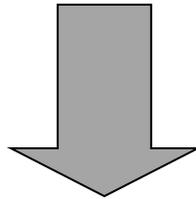
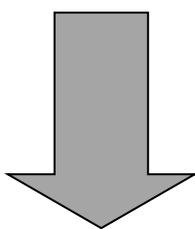


平成30年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（音楽科）

	低学年	中学年	高学年
身に付けさせたい力	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりして、思いをもって歌う。 ○楽曲の気分を感じ取り思いをもって演奏する。 ○音遊びやリズム遊びを楽しんだり、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくらせる。 ○音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらのよさや面白さなどを感じ取って聴く 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくらせたり、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくらせたりする。 ○曲想とその変化を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取ったりして、楽曲の構造に気を付けて聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。 ○曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する。 ○即興的に音楽をつくらせたり、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくらせたりする。 ○音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けながら曲想とその変化を聴きとる。



		低学年	中学年	高学年
児童の実態	1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○身体表現を好み、リズムに合わせて歩いたり、体を動かしたり、手遊びを楽しんだり、意欲的に音楽活動をする事ができる。 ○鍵盤ハーモニカの演奏を楽しみにしている。演奏技能に差がみられる。指を1本1本動かすことが苦手な児童がいる。 ○歌詞の情景に合った雰囲気を意識して歌っている。 ○苦手意識からか、意欲的に取り組めなかったり正確な音程で歌うことが難しかったりする児童が数人いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童のよいお手本を聴き合いそのよい点を伝えたり、ペア学習で気付いたことを互いに伝え合ったりする活動を取り入れることで、言葉で伝合うことに慣れてきた。 ○歌唱表現では、教師の助言をもとにして、情景を想像し曲にふさわしい表現を工夫する姿が見られる。 ○階名唱やリコーダーの学習が始まり、技能に差が見られ始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱については、自分の声や周りの声を聴いて合わせながら歌おうとする力が育ってきた。ハーモニーのよさを感じ取り、その美しさをさらに追求しようとする児童が増えつつある。そのことでクラスの歌声の中にハーモニー感覚が育ってきていると感じる。 ○楽器については、色々な楽器に興味をもっているが、十分時間がとることができなかった。また、リコーダーへの苦手意識を持つ児童が数人いる。
	2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○体の動きを伴う音楽活動や、様々な曲を歌うことに意欲的である子が多くいるが、恥ずかしがったり、どう表現すればよいのか分からなかったりして、取り組めない子もいる。 ○四分音符、八分音符、四分休符のリズムを覚え、カスタネット等の打楽器を演奏したり鍵盤ハーモニカの演奏を楽しんだりしている。 ○旋律を階名で感じ取ることに少しずつ慣れてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年目に入ったリコーダーでは、いろいろな曲を演奏することを楽しめる一方、階名視奏に時間を要することで、苦手意識を感じている様子も見られる。しかし、自分のペースで努力している。 ○歌唱では、旋律を重ねて響き合わせる心地よさを感じ取れるようになってきた。「このように歌いたい」という「思いや意図を働かせる」取り組みも充実しつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○合唱では、歌詞の内容に焦点をあてて表現を深める活動を通して、より想像を働かせたり、気持ちを込めて歌おうとする様子が見られる。 ○パート練習などでは目標を明確にすることで集中して取り組める児童が多いが、個別に関わらないとならない児童も数人いる。 ○音楽鑑賞では、音楽の特徴を深く聴き取ることができる児童と、漠然としかとらえることができない児童との能力に差が見られる。



	低学年	中学年	高学年
	<p>○体を動かす・ふし遊び・リズム遊び・音遊びなどをリレー方式で全員に発表させ、一人で表現したり、互いに聴き合ったりする場をつくる。</p> <p>○歌唱や楽器の音楽づくりに際し、曲に対して豊かなイメージがもてるよう工夫し、思いをもって表現できるようにする。</p> <p>○音楽表現をするための基礎的な技能を身に付けられるよう個別指導をする。表現に自信がもてない児童には、見本を示したり、たくさん褒めたりして、表現活動の機会を増やしたり、表現しやすい雰囲気を作ったりする。</p>	<p>○グループで創意工夫しながら、音楽づくりや合奏をする活動を経験させる。</p> <p>○自分たちの演奏を録音して振り返らせたり、クラスを演奏者と聴き手の二つに分けたり、教師による範奏を聴き比べさせたりするなど、「聴き取る方法」を工夫する。</p> <p>○電子黒板等の IT 機器を効果的に利用し、視覚的に理解できるような工夫をしていく。</p> <p>○表現や鑑賞において知覚・感受する力が弱い児童には、板書やワークシート、視聴覚教材の活用など、気付かせる手掛かりを多様に用意する。</p> <p>○歌うことが特別なものではなく当たり前のことであり、精一杯歌うことが楽しいという雰囲気作りを心がける。一人で歌う活動を多く入れる。その際、歌ってよかったと思えるような言葉がけをする。腹式呼吸や発声法などはワンパターンにならないよう変化のある活動をしていく。</p> <p>○リコーダーの演奏技能については、必要に応じて、担任・保護者と連携をとりながら、カードを使用し、家庭学習としても取り組ませる。</p>	<p>○2～3人で歌ったり、リレー唱をしたり、録音をして聴いたりするなど、自分や友達の表現を聴く活動を取り入れる。集中して聴けるよう、発表者の立ち位置や聴き手の位置を配慮するなど環境に配慮する。</p> <p>○電子黒板等の IT 機器を効果的に利用し、視覚的に理解できるような工夫をしていく。</p> <p>○児童が自信をもって活動し表現することが楽しいと感じることができるよう工夫を心がける</p> <p>○自分の思いや意図をもった表現ができるよう、「どのように感じ・どのような表現をしたい」等ワークシートを使用し意識化できるようにする。また、発言を交流する際には、特定の児童のみが発言するということがないよう、相互の指名制なども取り入れる。</p> <p>○説明や指示を理解しやすくするために、以下のような工夫を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い指示 ・具体的に示す ・板書の工夫 ・その都度の確認